

災ボラぐんま 2023

災害ボランティア情報を分かりやすくお届けします！

挨拶

理事長からのメッセージ 「日々に変化 地域優先」



今年には関東大震災から 100 年目、阪神淡路大震災から 28 年目ですね。関東大震災では 10 万 5 千人が阪神淡路大震災では 6 千 400 人が犠牲となりました。これは建物の構造やまちづくりが大きく変化しているため、その差は先達の人々の知恵と工夫が生かされていると思いますが、災害直後の人々の動きは犠牲者の減少ほど違いはありません。情報と道具の違いこそあっても人の心はほぼ同じであります。

そして凡そ 100 年ぶりの伝染病「新型コロナ」により生活習慣が一変しました。

変化は生活習慣だけではなく、「地域のことは先ずは地域で」という人の移動制限が生まれました。

私たちが住む群馬県は、災害が少ないと言われ、本当にそう思っている人もいますが、都道府県単位やアジア、世界規模から考えてみても、それを裏付けるデータは見当たりません。本当に安全ならば望むところですが、先のトルコ・シリアでの地震では 500 年の空白地帯があったと言われるなら油断は禁物です。この安全神話が「地域のことは先ずは地域で」の障害になるというデメリットになるかも知れません。「明日は我が身」を考えれば、地域内でのボランティアの育成を急がなければなりません。今、災害ボランティアぐんまが抱える課題は、その会員の増強と地域のボランティアリーダーの育成にあります。災害ボランティアに参加するだけでなく、安全神話を語る人たちに災害ボランティアの必要性を訴え、広めていくことが大切です。

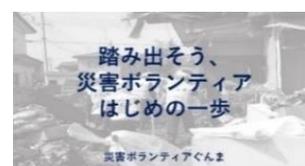
共助の初期活動期において、参加ボランティアが少なくは失望に暮れて立ち直る時間も長くなってしまいますし、避難所設置が長くなれば多くのボランティアも必要となります。規模の大きさにより他の地域からの応援もあるでしょうが、一刻も早く安堵と希望を作り出すのは先ずは地元の人達です。そのためにも普段からボランティアの存在を話し、机上の訓練や屋外訓練、また実際の現場に足を運んで実地訓練を経験しておくことが大切です。なお実地訓練する際は、被災された方々にボランティアを受け入れる苦悩があることも忘れてはなりません。

いつ起きるか判らない災害に対し、いつ起きても良いように自分自身の健康をはじめ家庭、職場等の基盤の安定を図り、災害ボランティアへの参加が出来る会員となることが望まれますが、そんなに堅苦しく考えなくても「やれる人が、やれる時に、やれる範囲をやれば良い」と捉えて、自分自身のために諸行事に参加しませんか。

令和 5 年 3 月 理事長 細金 義光

●「踏み出そう、災害ボランティアははじめの一步」動画公開中です●

細金理事長が出演し、災害ボランティアについて広く知ってもらうための動画が YouTube(群馬県 tsulunos チャンネル)で公開中です！是非周りの方にも視聴を薦めて、災害ボランティアの輪を広げてください！



富岡市総合防災訓練に参加しました！(令和4年9月18日実施)

4年ぶりの開催となった富岡市総合防災訓練(会場：富岡市立富岡小学校)に事務局と会員6名が参加しました。雨が降る中、富岡市社会福祉協議会を中心としたボランティアセンター運営訓練において、災害ボランティアの受付業務や物資の受渡しなどの運営業務を担当し、ボランティアセンター立ち上げ後の業務の流れを確認しました。新型コロナ感染拡大防止のため一定の制限はありましたが、久しぶりの訓練参加は有意義な経験となりました。



災害ボランティアセンター運営訓練の様子



災害ボランティアセンターに届いた救援物資を各避難所へ届けるトラックに受け渡します。

★ 群馬県総合防災訓練の様子が動画配信されています！ ★

参加を予定していた群馬県総合防災訓練ですが、新型コロナ感染拡大防止の観点から、規模が縮小され、参加予定の訓練が中止となりました。

訓練の様子を、群馬県のYouTubeサイト「tsulunოს」で公開中なので、みなさま是非、ご覧ください。



紹介

令和4年度災害ボランティア啓発動画を作成しました

群馬県が、災害ボランティアの周知啓発を目的に、講演会動画を作成しました。

本動画では、2004年に発生した新潟県中越地震での災害ボランティア参加をきっかけに、防災や復興まちづくりなどに携わっている、公益社団法人 中越防災安全推進機構 理事 稲垣文彦さんをお招きし、災害ボランティアの意外な役割や、被災者の力を引き出すボランティアについて、ご自身の経験を元にお話いただきましたので是非ご覧ください！

「災害ボランティアって何だろう？」

- ・講師：公益社団法人 中越防災安全推進機構

理事 稲垣 文彦 氏

● 動画公開中 ●



【令和3年度公開】

「災害ボランティアの固定観念を覆す！

誰もができる災害ボランティア コロナ禍の活動から見たこと」

- ・講師：災害 NGO 結 代表 前原 土武 氏

令和4年12月18日、24日、25日に「前橋市避難生活リーダー/サポーター研修」が開催されました。

この研修は、災害関連死ゼロを目指し、災害時の避難生活の環境向上に貢献できる地域の人材を育成することを目的に、内閣府のモデル事業として、今年度前橋市で実施されたものです。

前橋市内の自主防災会や自治会、消防団、社会福祉協議会や専門家などの様々な立場の方に混じり、災害ボランティアぐんま会員も参加して、主に発災直後の避難所生活における環境整備の課題やその解決方法について、グループワークを中心に学びました。24日は朝から雪が降り、大変寒い中での研修となりましたが、参加された方は3日間、大変熱心に講義を受講していました。

【1日目(12月18日) 研修内容】

- ・避難生活リーダー/サポーターの役割、心構えと姿勢
- ・多様な被災者の理解と配慮
- ・ワークショップ(グループ演習)
演習を通して被災者の心情や状況を理解

避難生活リーダー/サポーターは、避難所運営の基本的なスキルを習得して、行政や被災者とともに、避難所の生活環境向上に率先して取り組む人材！

【2日目(12月24日) 研修内容】

■避難所の全体像の理解

- ・避難所運営のポイント
- ・生活環境の整備
- ・避難所運営の一日の流れ
- ・避難所運営の担い手の理解



様々な事情の方がいることを想定し、生活の場としての避難所環境をよくするためのアイデアをグループ内で出しました。

■生活環境整備のグループ演習

再現された避難所スペースを巡回し、気になるところを話し合っ、改善できそうな箇所を検討して、全体で発表して共有



会場に用意された用具を使って、出し合ったアイデアをもとに避難所環境を改善した工夫について、会場で発表・共有しました。

【3日目(12月25日) 研修内容】

■対人コミュニケーション

避難所におけるコミュニケーションの目的、基本についての講義と、実際のコミュニケーションの取り方を体験

■被災者の困りごと把握の重要性

被災者との情報共有、参加できる場づくり、課題解決の考え方の講義

■情報共有・認識共有・合意形成

「被災者と一緒に取組めること」
「他の運営の担い手と一緒に取組むこと」をグループで話し合う



「被災者役」、「リーダー/サポーター役」「観察者(リーダー/サポーターが話をしているときに被災者の様子を記録する)役」に分かれて、演習を行いました。演習を通じて、場面に応じた被災者の心情や困りごとを聞き取る際の、ポイントを体感しました。



赤十字防災セミナーを開催しました！

11月27日に日本赤十字社群馬県支部の職員の方をお招きし、群馬県男女共同参画センター4階 大研修室で、赤十字防災セミナーを開催しました。参加した会員は、日本赤十字社の紹介や、災害への備えについて説明を受けた後、過去に発生した大規模な災害の被災者の経験談を通じて災害を追体験し、被災の具体的なイメージを理解する災害エスノグラフィーの講義を受けました。配付された資料に記載された阪神淡路大震災の被災者の体験談を読み合わせて、知らなかったことや大事だと思ったことについて、グループ内で意見を共有することで、普段とは違った視点から「被災者の気持ち」や「災害ボランティアの役割」などについて考える研修になりました。



災害時にいのちを守るためには、日頃から自ら災害に備えておくことが必要！

災害エスノグラフィーでは、被災者の体験談をもとに、色々な考えや思いをグループで共有しました。



●「災害ボランティアぐんま」会員募集！

「災害ボランティアぐんま」では、災害時の災害ボランティア活動や平時での災害ボランティアに関する研修・訓練等を行っています。

＜募集内容＞

- ◇応募資格：災害ボランティアに意欲のある方
- ◇年会費：無料 ◇応募期間：随時
- ◇報酬：なし
※ボランティア活動保険に無料で加入できます。

◇応募方法

災害ボランティアぐんまホームページ
(<http://www12.wind.ne.jp/saijol/member/kojin.html>)
から申込用紙をダウンロードできます。
必要事項を記入の上、事務局まで郵送又はFAXでお送りください。

◇問合せ先

災害ボランティアぐんま事務局
(群馬県 生活こども部 県民活動支援・広聴課内)
TEL：027-226-2291

◇令和4年度の主な活動実績

- ・災害ボランティアや災害ボランティアセンター運営関連の研修の実施・参加
- ・富岡市総合防災訓練への参加 等

●災害ボランティア活動への助成事業

群馬県社会福祉協議会では、県内のボランティア団体等が災害支援のためボランティア活動を実施する際の活動経費を助成しています。

詳細は、同協議会(前橋市新前橋町 13-12、TEL：027-255-6111)にお問い合わせください。

＜事業の概要＞

◇助成対象団体

県内に活動拠点を置く5人以上のボランティアグループ等で、同協議会に事前登録を行った団体

◇助成対象事業

被災地における生活支援活動(原則発災から3ヶ月以内の活動)

◇助成対象経費【対象となる経費の例】

- ・ボランティア活動(以下、「活動」)に要する現地までの交通費、宿泊費
- ・活動に要する資機材等の購入または借入費用
- ・活動に要する消耗品等の購入費用
- ・バスやレンタカー等の車両の借り上げ、ガソリン代金、有料道路通行料、駐車料金等

◇助成額

1団体につき20万円を上限に助成

【発行元】災害ボランティアぐんま事務局(群馬県 生活こども部 県民活動支援・広聴課内)

〒371-8570 前橋市大手町 1-1-1

電話：027-226-2291

Mail：npo@pref.gunma.lg.jp

【発行日】2023年3月